

# 石戸城跡(北本市)

築城年代:室町時代、築城者:藤田八右衛門

前方の台地の上に石戸城跡が所在する/右手は荒川/天神下公園で北西側から見たところ



公園の看板には石戸城跡、一夜堤の表記があり、石戸城跡の西側(図では下側)は荒川と云う天然の要害に、北側(左側)と東側(上側)も沼地によって同様に守られている/上杉謙信が北条・武田軍に包囲された松山城(東松山市)の救援のために四回目の雪中越山をして着陣した城がこの石戸城跡



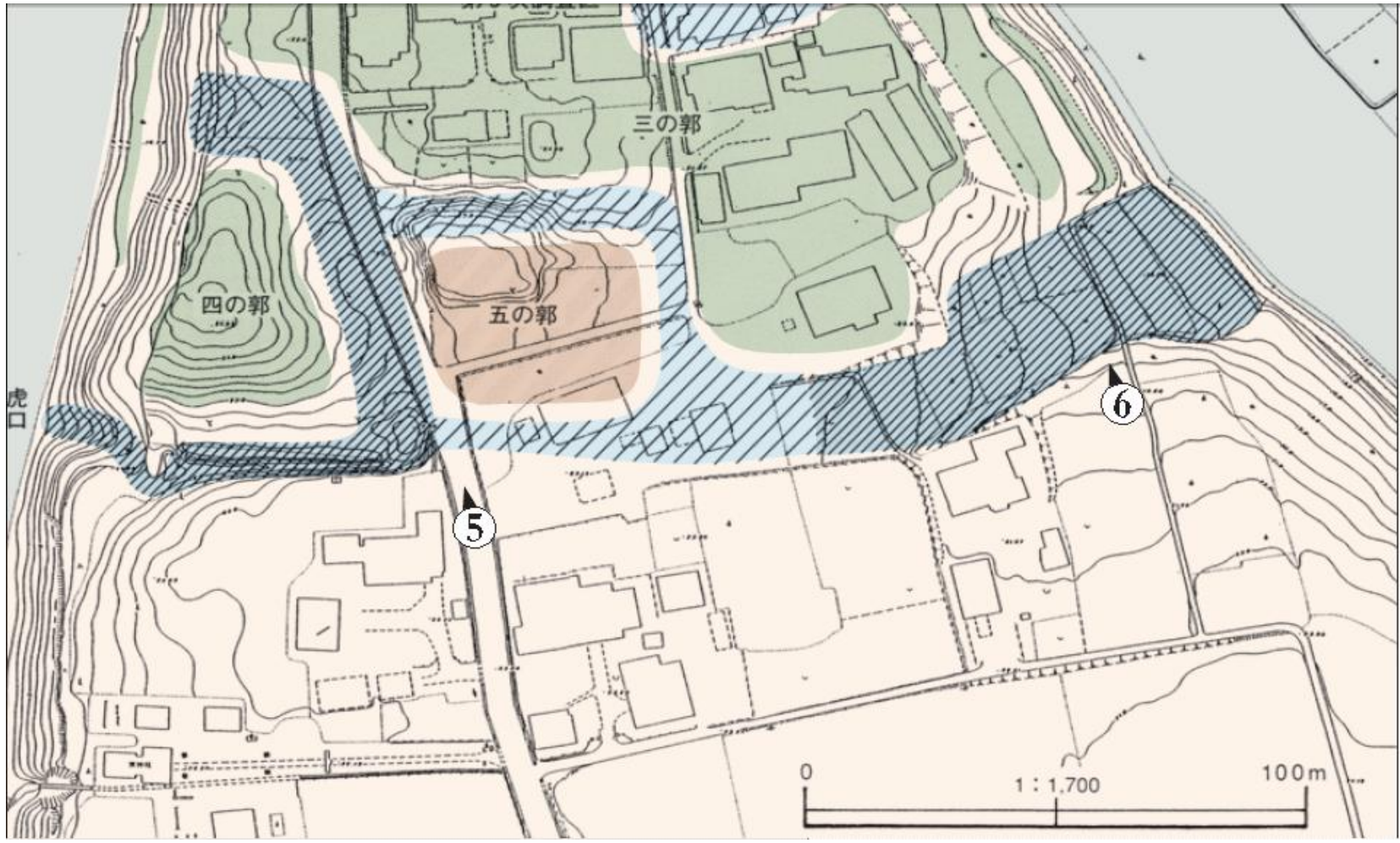
「広報きたもと No.916」より

①腰郭 / ②オオタニ / ③やぐら台跡 / ④堀底道 / ⑤虎口(入口) / ⑥南部堀跡



### 石戸城跡の郭想定図

石戸城はおおむね台地を東  
西方向の堀で区画し、五つの  
郭を形成している連郭式の城  
郭です。



台地の南側から進むと、この前方のエリアが石戸城跡/左下が荒川/ポスターの右手に説明板が立っている/この道は桜堤通りと云うそうな/南側から北方向を見たところ



振り返って、城跡の南エリアにあった石戸宿跡方向を見たところ/石戸宿は石戸城が機能していた頃からある宿場で、城と宿場が一体となっていた/この道は松山城に向う交通の要衝であった



そこで右手を見ると、四の郭南端に空堀跡が見える



この塀に沿って堀跡が見える





こんな塩梅



アップで見たところ



さて、もう一度振り向いて最初の北方向を見て、説明坂を見たところ/義と筋目」の戦国武将、上杉謙信が雪中越山して扇谷上杉氏の支城である松山城からの救援要請に応えるべく、ここに着陣したと云う



城域は比高6mほどの河岸段丘上であるが、北側は低地に面しており、東側の台地との間にも沼が入り込んでいて、島に近い地形であり、その要害性を利用した城郭であった/石戸城は15世紀中ごろの築城で戦国時代には岩付城と松山城を結ぶ拠点(戦国期には岩付城の支城の1つとなっていたらしい)として重要な役割を担っていた

埼玉県選定重要遺跡

いしとじょうあと  
石戸城跡

昭和四十四年十月一日選定



石戸城は別名「天神山城」ともいわれ、十五世紀後半頃に築かれたと考えられている。当時は戦国大名が覇権を争う群雄割拠の時代であった。城は上杉氏の家人・藤田八右衛門によって築城

されたとされ、北上する北条氏の勢力に備えるため、岩付城から松山城、河越城を結ぶ防衛線の一部を担っていたと思われる。

永禄六年(一五六三)二月、北条・武田の連合軍が上杉方である松山城を包囲した際、雪の上越国境を越えて援軍に駆けつけてきた上杉輝虎(謙信)が、短期間ではあるが石戸城に逗留している。

その後は北条氏の支配を経て、徳川氏の関東入国以降、城としての役割を終えるようである。

現在では発掘調査などによって土塁や堀が良好に保存されていることが確認され、堅牢な城郭の姿が復元されつつある。

平成二十九年三月

北本市教育委員会

説明板の縄張図をアップで見たとこ/正面の辺りは五の郭・三の郭のエリアで、道路の反対側(図の左手)が四の郭/四の郭の南端(図の下側)に先程の堀跡があった/これら三、四、五の郭の更に北方向に一の郭と二の郭が展開している





これは四の郭を南側から北方向に見たところ



そこで右手の五の郭及び三の郭方向を見たところ





説明板脇から見た五の郭のエリア/窪みは堀跡の名残りか



同じく、説明板脇から見た三の郭のエリア



桜堤通りを北方向に進むと、このエリアは一の郭(主郭)であるが、この道路によって左右に分断されている



左手を見たところ/この更に左下が天神下公園となっている



同じく、右手を見たところ/分断されているこの東側の一の郭の中に物見櫓台と推定される地形があると云うが、民家の敷地内で踏み込めない/U字型のテントの後方に見える高まりがそれらしい



その右手を見たところ/一の郭のエリアの南側の畑にはこのような幅広の窪みがあるが、これは三の郭との間の堀跡らしい



その一の郭のエリアを南側から見たところ/正面奥に土塁のような高まりが見える/これが物見櫓台らしい/手前は三の郭との間の堀跡と云われる所



物見櫓台をアップで見たところ





そこで左手を見たところ



同じく右手を見たところ



これは三の郭(左手)との間の堀跡を東側から見たところ



そこから物見櫓台方向を見たところ/少しづつ上っている



こんな塩梅で前方が物見櫓台



アップで見たところ



さて、この切通しは一の郭(左手)とその東側(右手)にある二の郭の間の堀切



北方向に進むと、これがその堀切/左手が一の郭、右手が二の郭





右手には二の郭の土塁も見て取れる



左手は一の郭



更に北方向に進むと開けている



これは桜堤通りで分断されている一の郭(主郭)を北側から南方向に見たところ



そこで左手を見ると、前方が先程の切通し(堀切)の先の開けた所/そこから左下に進んで右折すると、一夜堤方向へ続いている



左手を見たところ/前方の遊歩道を進むと一夜堤方向へ行けるようだ



それでは一夜堤方向へ進んでみよう



案内板が立っている/二の郭の北側土塁の外側に設置されている





一夜堤口を示す案内板



周囲はこのような湿地帯



二の郭の外側を回り込んで進む



右手の二の郭を見ると土塁の一部が見て取れる



アップで見たところ



前方に土橋のようなものが見えて来た



これが二の郭の東側の沼の中央部にかかっている土橋(一夜堤)/石戸城跡は北側と西側は沼地で遮られており、東側の台地から石戸城を攻めるには、この土橋(一夜堤)を渡る以外に無い/右手が石戸城跡、左手が東側の台地



石戸城跡から東側の台地を見たところ





一夜堤の中程に説明坂が立っていた



一夜堤は北条氏が石戸城を攻めた折、一夜にして沼地に堤を築いたことにより、その名がついたと伝えられている

# 石戸城と一夜堤

石戸城は、室町時代長祿年間(二四五七〜六〇)ころ、岩付

松山・河越の各城との連絡のために築かれたものと伝えられている。扇谷上杉氏の家臣藤田八右衛門の居城にはじまり、

永祿六年(二五六三)松山攻めの時には、上杉謙信が石戸まで進入してくるなど、いくたびかの変遷をみたという。

謙信の松山攻めに先立つ永祿五年(二五六二)北条氏邦は、北条氏政の命により秩父・鉢形勢を率いて上杉方のこの城を

攻め、時の城主毛利丹後守とのあいたに激しい攻防戦を演じたことが「関八州古戦録」にみえている。毛利氏の守りは

固く、北条勢は多くの死傷者を出したが、この時氏邦は、暗夜に乗じて城の東側の谷地に一夜にして土橋を築き

一気に城へ攻め上って勝利したという伝承がある。この土橋が現在「一夜堤」と呼ばれている。

「一夜堤」は、石戸城跡と谷をへたてた東側の台地とを結ぶ、長さ四五メートル、幅五メートルほどの堤で、

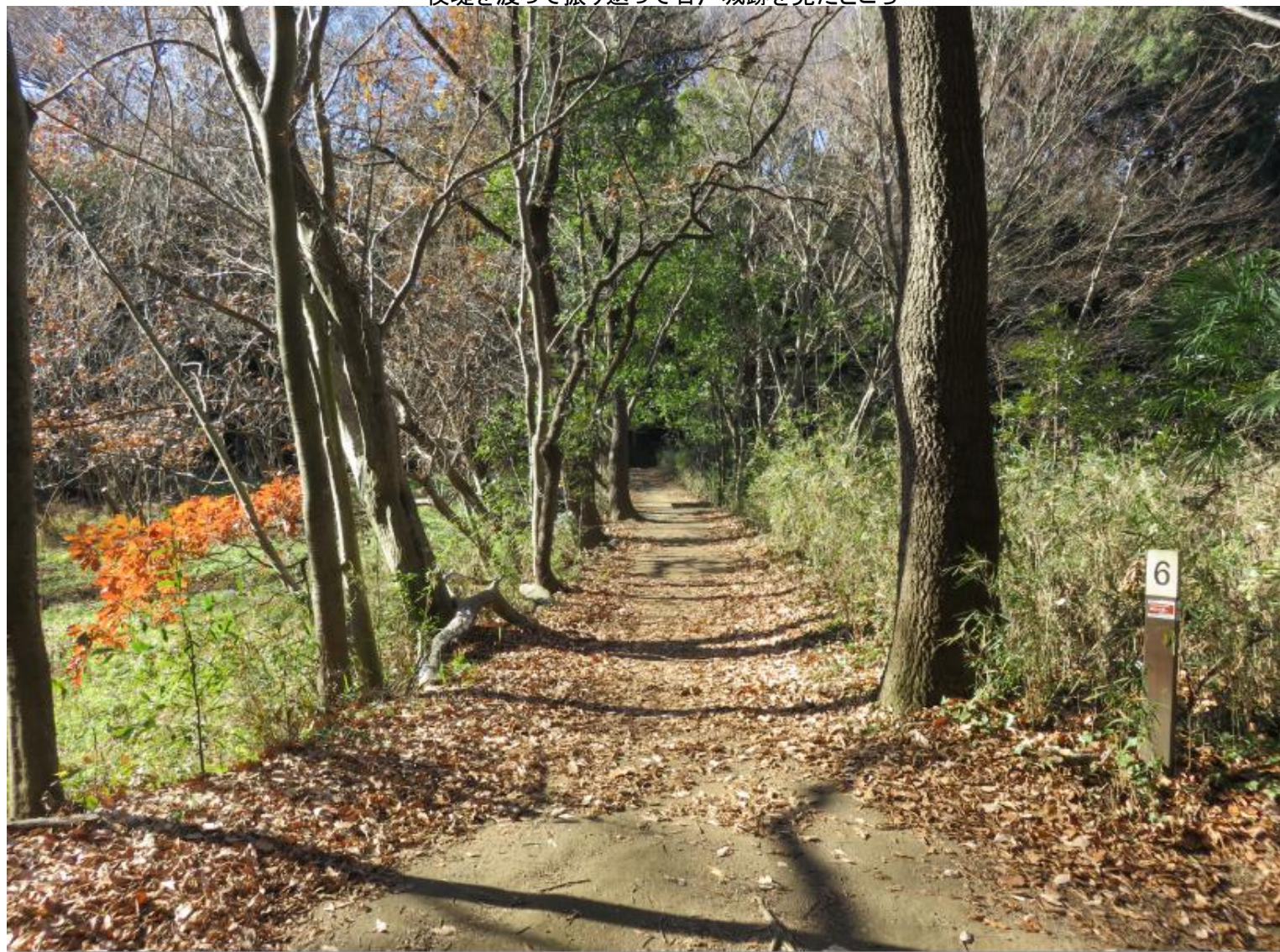
自然散策の遊歩道として市民に親しまれている。

平成元年三月日 北本市

前方が東側の台地



一夜堤を渡って振り返って石戸城跡を見たところ



一夜堤北側の沼地の模様/東側の台地から石戸城跡を見たところ



これは城域の西側にある天神下公園から石戸城跡を見たところ/当時はこの公園部分には荒川が流れていたのであろう



## 参考ホームページ

<http://yogokun.my.coocan.jp/saitama/kitamotosi.htm>

<https://ckk12850.exblog.jp/6970250/>

<https://blog.goo.ne.jp/ihcirot/e/380667e66a304c91be2591225ddef4b9>

<http://www.water.sannet.ne.jp/u-takuo/isidozyou.htm>

<https://sites.google.com/a/onodenkan.net/lie-dao-cheng-zhi-ji-xing/qi-yu-xian/shi-hu-cheng>

[https://blogs.yahoo.co.jp/lunatic\\_rosier/53901744.html?\\_yosp=55%2Bz5oi45Z%2BO6Leh77yI5YyX5pys5biC77yJ](https://blogs.yahoo.co.jp/lunatic_rosier/53901744.html?_yosp=55%2Bz5oi45Z%2BO6Leh77yI5YyX5pys5biC77yJ)

[https://blogs.yahoo.co.jp/kanezane2/13736449.html?\\_yosp=55%2Bz5oi45Z%2BO6Leh77yI5YyX5pys5biC77yJ](https://blogs.yahoo.co.jp/kanezane2/13736449.html?_yosp=55%2Bz5oi45Z%2BO6Leh77yI5YyX5pys5biC77yJ)

<http://jyokakuzukan.la.coocan.jp/011saitama/106ishido/ishido.html>

<http://kogasira-kazuhei.sakura.ne.jp/joukan-saitama/isido-jou-kitamotosi-2005/isido-jou-kitamotosi-2005.html>

[http://www.city.kitamoto.saitama.jp/ikrwebBrowse/material/files/group/3/916\\_p26-31.pdf#search=%27%E7%9F%B3%E6%88%B8%E9%A4%A8%E8%B7%A1%EF%BC%88%E5%8C%97%E6%9C%AC%E5%B8%82%EF%BC%89%27](http://www.city.kitamoto.saitama.jp/ikrwebBrowse/material/files/group/3/916_p26-31.pdf#search=%27%E7%9F%B3%E6%88%B8%E9%A4%A8%E8%B7%A1%EF%BC%88%E5%8C%97%E6%9C%AC%E5%B8%82%EF%BC%89%27)

